

保育士・教員養成センター 10年間のあゆみ

有見 正敏*

Ten-year History of Nursery Teacher and Teacher Training Center

Masatoshi ARIMI*

*Department of Human Education, Faculty of Human Studies,
Ishinomaki Senshu University, Ishinomaki 986-8580, Japan*

1 はじめに

石巻専修大学は1989年4月に、理工学部と経営学部の2学部で発足した。その後、時代の変化とともに、石巻圏域から女子生徒が進学しやすく、地域貢献ができる学部・学科の新設などの要望が出されていた。この要望を実現すべく検討してきた結果、2013年4月に人間学部（人間文化学科と人間教育学科）が開設された。

本学部の目標は、地域社会を支える人材、地域の教育に貢献する人材の育成にある。地域の文化施設や教育現場に出向いて、観察、経験したことをまとめ、それを自分の言葉で情報発信できるようになることを教育の基本方針としている。

目指す資質・能力としては、日本文化について深く学ぶとともに、さまざまな文化の体験を通して異文化に対する理解力を高めることで、世界中での日本人としてのアイデンティティを確立し、異集団との人間関係を構築できる能力の修得を目指している。

さらに、現場で様々な経験することによって、責任感、使命感、協調性などを身に付け、必要と思われる各種資料を自発的かつ積極的に検索するとともに、地域の人々や同僚などとの深い議論ができる能力を獲得できることを期待している。

初代山崎人間学部長は、「石巻圏域の有能な人材を活用し、大学と石巻市民が共に学生を育てる環境をつくることを通して、新しく直面するであろうさまざまな事象に対して、自ら考えて行動できる学生を育成したい。」と本大学時報で述べている。

本稿は、開設時に設立した「保育士・教員養成センター」が事業として行ってきた内容に対して

「石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会」と下部組織である「教育人材育成拠点校連携推進連絡会」における開設以来10年間の取組と成果を振り返る。また、今後どのように発展・充実させていったらよいかについて報告する。

2 石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会

2-1 趣旨・参加機関・事業内容

〔趣旨〕

石巻地域の保育・教育・文化関係の人材育成を推進するため、関係者・関係機関が広く連携することにより、地域の教育力を向上させ、教育環境の改善を図る必要がある。東日本大震災からの復興・再生のためにも、地域の将来を担う子どもたちへの教育や環境づくりを連携して取り組むことは重要であり、広く意見交換を行う。このような取り組みは、地域連携のモデルにもなり得る。

〔参加機関〕

◇石巻専修大学（保育士・教員養成センター）

◇教育行政機関

- ・石巻地域高等教育事業団
- ・石巻市教育委員会、東松島市教育委員会
- ・女川町教育委員会

◇行政機関

- ・石巻市保健福祉部子育て支援課
- ・石巻市保健福祉部子ども保育課
- ・東松島市保健福祉部子育て支援課
- ・女川町保健福祉部

◇学校・施設等の連合組織

- ・石巻地区高等学校・特別支援学校長会
- ・東部地区小・中学校長会
- ・石巻地区公立幼稚園・こども園協議会

*石巻専修大学人間学部人間教育学科

保育士・教員養成センター 10年間のあゆみ

- ・宮城県地区私立幼稚園連合会石巻地区会
- ・石巻地区保育協議会

〔事業内容〕

- ◇人材育成に関わる情報の交換
- ◇学生の教育実習等に関する進路・調整、指導
- ◇相互の講師派遣
- ◇子どもや保護者、市民向け企画等の実施
- ◇各種組織・団体の研修生等の受け入れと指導
- ◇「改正認定こども園」経過措置に関する協議
- ◇保育士・教員向けの各種研修会に関する協議
- ◇拠点校・協力校連携推進に関する事業
- ◇採用試験の受験指導

2-2 石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会における意見交換の内容

表1 協議会における報告(○)と協議(◇)

〈平成25年度〉 ◇協議会の趣旨について ◇会長・副会長の選出について ◇連携のあり方について
〈平成26年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○公開講座について ○学生のボランティア活動のアンケートについて ◇保育・教育に関する意見交換と情報交換
〈平成27年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○公開講座について ○教員免許更新講習の開設について ○不登校問題に関するシンポジウムについて ◇保育・教育の課題についての意見交換
〈平成28年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○公開講座について ○教員免許更新講習の開設について ○不登校問題に関する研究会について ◇保育・教育の課題についての意見交換
〈平成29年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○教員免許更新講習について ◇保育・教育の課題についての意見交換
〈平成30年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○教員免許更新講習について ○不登校問題に関する研究会について ◇保育・教育の課題についての意見交換
〈令和元年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○教員免許更新講習について ○「教師力向上セミナー」の開催について

◇保育・教育の課題についての意見交換
〈令和2年度〉：コロナ感染拡大防止のため中止
〈令和3年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○教員免許更新講習について ○「教師力向上セミナー」について
◇保育・教育の課題についての意見交換
〈令和4年度〉 ○教育人材育成拠点校連携推進連絡会から ○「教師力向上セミナー」について
◇保育・教育の課題についての意見交換

2-2-1 教員の資質向上のための公開講座

本講座は、石巻圏域の教育・学術の振興及び地域社会の発展と教育人材育成に寄与するため、教員研修の公開講座を平成26年に第1回目に実施した。なお、本講座は、宮城県教育委員会との協定に基づき、県が主催する「10年経験者研修」の指定に認定された。

表2 公開講座の内容(平成26年)

講座名と講師
①子供と共に伸びる教師 ・人間学部教授 木村民雄〈6月14日(土)〉
②教科指導の基礎・基本の確認と学習効果 ・人間学部名誉教授 阿部康一〈6月28日(土)〉
③子供を伸ばす教科指導の方法 ・人間学部特任教授 田中秀典〈7月12日(土)〉
④カウンセリングの方法と技術 ・人間学部教授 佐藤正恵〈7月26日(土)〉
⑤生徒指導課題への対応 ・人間学部特任准教授 新福悦郎〈8月9日(土)〉

協議会において、東部教育事務所や石巻地区校長会から、教員の時間的・経済的状况からも「10年経験者研修」の本学開催を歓迎する声が多数寄せられた。

〔参加者の声〕

・話を聞くだけの講義ではなく、受講者が発言する場も設けられて大変勉強になりました。講師の先生も親しみやすいお人柄で、話のペース、間の取り方など魅力にあふれていました。

・久しぶりに大学の講義を受講でき、大変刺激的でした。もっと勉強したいという意欲にかきたてられました。学んだことをぜひ授業に生かしていきたいと思います。

・教科書の本質を見抜き、教材研究をしていかな

ければならないと改めて感じました。今日は小学校の題材が多かったのですが、中学校の授業をしていると、小学校でどのような指導がされているかを知っていないといけないと感じたので、今回の講座は大変参考になりました。

・発達障害についてなかなか保護者に伝えるのが難しいです。夏休み中に学年でピックアップした生徒（保護者に許可を得られた生徒）に検査を行う予定です。その結果を踏まえて、様々なアクションをしていこうと考えています。

・今日参加できて本当に良かったです。「いじめは人権問題であり、子どもたちが安全に学ぶことができる場を確保するのが教師の義務であること」この言葉をしっかり守り、2学期からの子どもたちの学びの場を充実したものにしていきたいと思えます。

2-2-2 教員免許更新講習の実施

平成 19 年 6 月の教育職員免許法の改正により学校教員が定期的な最新の知識技能の修得を図り社会の尊敬と信頼を得ることを目的とし、平成 21 年 4 月から 10 年に 1 度の教員免許状の更新が義務付けられた。

石巻圏域保育・教育人材育成推進会議において東部教育事務所から、教員免許更新を開催できないかの要望が出されていた。

そこで、地域に開かれた大学として、平成 28 年度より「教員免許状更新講習」を開始した。

更新の内容は、(A) の必修領域（教育の最新事情）、及び (B) 選択必修領域（①学校をめぐる近年の状況の変化と専門職としての教員 ②危機管理の課題と組織的対応の必要性）の 2 領域である。
〔A：必修領域〕

◇開催日と受講者数

平成 29 年 8 月 3 日（木）59 名

◇講師

- ・人間学部教授 佐藤 幹男
- ・人間学部教授 笹原 英史
- ・人間学部准教授 永山 貴洋
- ・人間学部助教 平川 久美子

〔B：選択必修領域〕

◇開催日と受講者数

平成 29 年 8 月 4 日（金）

①➡ 38 名 ②➡ 19 名

◇講師①

- ・人間学部教授 木村 民男
- ・人間学部教授 新福 悦郎
- ・人間学部特任教授 有見 正敏

◇講師②

- ・人間学部教授 新福 悦郎
- ・人間学部教授 照井 孫久
- ・人間学部特任教授 有見 正敏
- ・人間学部特任教授 田中 秀典

表 3 申込者勤務先内訳（人）

	高 校	中学校	小学校	幼稚園	保育園
石巻市内	6	7	7	0	0
その他	18	12	6	5	5
計	24	19	13	5	5

石巻市内から 20 人、その他の地域から 46 人計 66 人の参加である。その他の地域は、東松島市、女川町、登米市からの参加があり、予想を上回る参加人数となった。

協議会では、「免許状更新講習が石巻専修大学で受講できることは大変ありがたいことである。近くに受講できる大学があることによって、地域に開かれた大学としての役割が今後期待される。」「本校の教員が受講した。最新の情報を知ることができ、これから何をしなければならないか、また、教員としての自覚を改めて感じることができた。」などの歓迎する意見が多数出された。

2-2-3 学生のボランティアのニーズ

学生に、地域社会の教育活動や福祉活動に貢献できる資質を身に付けさせたいことから、具体的な取り組みの一つとして、学校におけるボランティア活動の推進に着手した。そのため、東部事務所管内（石巻市、東松島市、女川町）の小学校に対して教育委員会を通じてアンケートを実施した。
(H26.5)

アンケートは、日常の学校生活と長期休業中に分けて行った。回収率は 37 校、全体の 76% であった。

表 4 日常の学校生活におけるボランティア活動

	望んでいる	望んでいない	検討中
石 巻 市	16 校	8 校	5 校

保育士・教員養成センター 10年間のあゆみ

東松島市	1校	4校	2校
女川町	1校	0校	0校
計	18校	12校	7校

◇学習に関して

・放課後の学習支援、授業中の個別指導、授業の補助(特に、体育、音楽、図工、理科の実験、家庭)、校外学習時の補助

◇行事に関して

・宿泊時の補助、運動会・学習発表会の準備
就学時健康診断の補助、駐車場の誘導、学習参観日の学級懇談時の児童預かり

表5 長期休業中におけるボランティア活動

	望んでいる	望んでいない	検討中
石巻市	16校	10校	3校
東松島市	3校	3校	1校
女川町	1校	0校	0校
計	20校	13校	4校

◇学習に関して

・学習支援、水泳指導

◇その他

・プール監視、花壇整備等

協議の中で、石巻市教育委員会から、回収率が低いことによる意見が出された。何らかの形で意思表示をしないとそこから進まないの、という判断のもとでこのような回収率になったのか、校長会・教頭会で話題にしていきたいとの意見が出された。

また、東松島市教育委員会からは、学生が学校現場に出て動き出しているが、残念ながら東松島ではまだ学生の姿が見えていない。学生を受け入れている所で、様子等についての情報をもらいたい。受け入れ態勢については協力したいと思っている等の意見が出された。

学校は、学生のボランティア活動を望んでいることが分かる。学習に関しては、現在も授業中や放課後の学習支援等に当たっている。一方で、要請されても学生と学校の時間帯が合わず、実施できない状況にあることも事実である。

行事に関しては、運動会と学習発表会の準備のボランティア活動が圧倒的に多かった。

長期休業中は20校ほどあり、ほとんどが学習支援であった。夏休みの課題や自主学習の取り組

みに対する質問、相談、励ましなどが主な内容であった。

学生によるボランティア活動は、平成27年から続いており現在に至っている。登録人数は、延べ60人となっている。

表6 ボランティア活動登録数(令和5年):人

年	曜	火	水	木	金	土日
1年次		2	4	8	8	5
2年次		5	1	11	0	5
3年次		0	0	5	3	3

2-2-4 不登校支援シンポジウム2019

石巻地区における不登校出現率は、全国・宮城県と比較しても高い状態が続いていた。高くなっている原因としては、一部の調査結果からは震災との関連が推測されたが、十分なエビデンスは示しておらず、むしろ、不登校発生の原因は複数の要因が複雑に絡み合っていることが推測された。このような状況のなかで、人間教育学科の教員が中心となり、平成27年に、地域の教育委員会の協力を得ながら小学校・中学校の教員と連携して「石巻地区不登校支援研究会」を立ち上げ、活動を開始することとなった。

◇ シンポジウムの概要

(1) テーマ

「不登校支援のコーディネーターはだれか」

(2) 目的

不登校支援研究会では、これまでアンケートの実施やアセスメントについての検討、さらには不登校支援の事例検討などに取り組んできた。今後さらに不登校児童生徒への支援の成果を上げていくためには、関係者の取りまとめ役を担うコーディネーターの役割が重要になると考える。そのため、学校現場におけるコーディネーターの役割は誰が担うのか、コーディネーターの機能は何かといった問題について、様々な視点から議論を深めることを目的に不登校支援シンポジウムを開催する。

(3) 内容

i) 日程

2019年2月9日(土)

9時30分～12時(受付:9時～)

ii) 場所

石巻専修大学 4 号館 1 階 4104 教室

iii) シンポジウム式次第

◇開会の挨拶

石巻地区不登校支援研究会会長 木村 民男

◇学部長挨拶

石巻専修大学人間学部 佐藤 幹男

◇経過報告

石巻専修大学人間学部 照井 孫久

◇シンポジウム

(コーディネーター)

・石巻専修大学人間学部 横江 信一
(シンポジスト)

・けやき教室室長 土井 正弘
・鹿又小学校長 相沢 進
・湊小学校教諭 相澤 洋之
・矢本東小学校教諭 福原 伸宏
・牡鹿中学校主幹教諭 鈴木 実
・矢本第二中学校教諭 小松 隆

◇不登校支援の今後に向けて

・石巻北高等学校飯野川校副校長 下田 仁

◇閉会の挨拶

・石巻専修大学人間学部 新福 悦郎

◇ 不登校支援シンポジウムにおける発言の概要

◆コーディネーター：横江

・自己紹介を兼ねて、今回のテーマである「不登校支援コーディネーターはだれか」ということでお話をいただきますが、まずはじめに、不登校の歴史的な経緯を考えたいと思います。昭和 55 年ころ、病気ではないが丈夫でない、「不健康な子」という言葉がありました。昭和 57 年、非行第三波として遊びからの非行が目立ち、校内暴力、高校中退、そして、登校拒否として顕在化してきました。平成元年、登校拒否の他、巣ごもりという現象も現れました。それから、30 年が経過し、今、不登校支援の在り方を全体で共有していきたいと思えます。

◇けやき教室：土井 正弘 室長

・けやき教室は、平成 4 年に開設し 27 年目。今年度の本通所は、小学校が 6 人で中学校が 20 人。増加の傾向にある。不登校の要因は、クラスや部活の人間関係 11 人、学級担任 3 人、いじめ 2 人、クラスがうるさい 2 人、勉強が嫌い 1 人、不明 2

人になっている。

・他者に求め、自分の方に課題がある子どももいる。発達障害の診断を受けている子どももいる。アスペルガー、自閉症、PTSD、心身症など考えられる。高校進学は、6 人中 5 人である。学級復帰は 1 人。SSW と連携し引きこもりの防止に努めている。

◆コーディネーター：横江

・ここからお話をいただくポイントは、校長の立場と担当の立場でお話をいただく。もう一つは、小学校と中学校の連携です。以上の観点から、お話をいただきたい。

◇鹿又小学校：相沢 進 校長

・子供会に入らない家庭がある。2 割弱の就学援助、発達障害と思われる子どもが 2 割である。このような中で、夢と感動のある学校を目指している。担任は、分かる、できる授業づくりのできる環境づくりに努めている。

◇湊小学校：相澤 洋之 教諭

・全学年が単学級である。朝は、木曜日以外は学級の時間にしている。全員登校は、平成 29 年度は 3 日間であったが、今年度は、23 日間であった。本校のコーディネーターは教頭である。

◇矢本東小学校：福原 伸宏 教諭

・いじめ、不登校担当教諭は、6 学年主任で学級を持っていない。ケース会議は短期目標を設定し、SC や SSW も同席し、情報を共有している。本校では私がいじめ不登校の担当となっている。

◇牡鹿中学校：鈴木 実 主幹教諭

・仮設住宅がある中、地域貢献活動としてゴミ拾い活動を行ったり、踊りを披露したりしている。小規模校であることから、人間関係づくりが課題である。不登校の具体例としては、小学校の時に頑張っていたが、1 年生の一学期から不登校になったケースがある。SSW や保健師、からころステーションと連携している。

◇矢本第二中学校：小松 隆 教諭

・平成 30 年度は 16 人の不登校がいる。不登校の出現率は 4.39 で、宮城県が全国と比較して高い。ケース会議は月 1~2 回開催している。学校訪問相談員や学校相談員、SSW、SC の他に保健師や東部教育事務所からも担当が同席している。別室登校として、さわやか教室があり、8 人が通って

いる。

・新規の不登校は、今年度6人、1年は2人、2年は3人、3年は1人である。小学校からの継続は明確には分からない。

◆コーディネーター：横江

・補足等があれば、ご発言ください。

◇鹿又小学校：相澤 進 校長

・学校経営では、「夢と感動ある学校」を目指している。本校のいじめ、不登校担当は、養護教諭である。養護教諭は、様々な情報を把握している。もう一つ、年度途中に、タイムテーブルの変更を行った。毎日、午後3時過ぎはフリーにして、担任と子どもが向き合う時間を取れるようにした。そのため、今までの業前活動をなくし、8時15分から読書を行い、静かな環境の中で朝の会と健康観察を行い、8時25分から授業を行うようにした。3時以降のゴールデンタイムに人間関係づくりを行っている。教頭はコントロールタワーでSSW やけやき教室との連携を行うが、コーディネーターは養護教諭にしている。

コーディネーター：横江

・参加者の皆さんから、ご意見、ご質問はございますか。

◇矢本第二中学校：近藤 養護 教諭

・養護教諭の立場から、今、コーディネーターとしてお話があり、光栄に思います。確かに、養護教諭の立場は、生徒や保護者、教職員など様々なところからの情報を持っています。保健室に体調不良で来る生徒を診なければならぬこともある中で、養護教諭の役割は重要になってくると考えます。

◇東部教育事務所：三浦 裕子 副参事

・コーディネーターは、だれかとなれば、様々な場面に対応することを考えれば、教頭でもあり、養護教諭でもあります。場面に応じて、全ての先生方であり、かかわることによる「ヒト」であるのではないのでしょうか。

◇東部教育事務所：加勢 徳寿 指導主事

・生徒指導担当である。東部教育事務所管内は、不登校問題が改善されない状況にあり、今回、出席して情報を共有しながら各学校への指導を適切に行っていききたい。

◇市学校支援員：佐藤 金一郎 氏

・A中学校では、一部生徒が問題を抱えている。先生方は大変でありサポートしている。

◆コーディネーター：横江

・次に、下田副校長先生からのお話から更に、テーマ「不登校支援のコーディネーターはだれか」について考えていきたいと思います。

◇石巻北高等学校飯野川校 下田仁副校長

・朝のあいさつ、職員室への入室マナーなど指導している。副校長として先生方と朝のあいさつにより、生徒を迎えている。不登校傾向の生徒には、朝のうちに担任が家庭訪問をしている。

・中学校まで不登校だった生徒が、フラダンスチームに入って休まず通学できるようになった。

・不当だった生徒が、スピーチコンテストで最優秀賞になり、大学に進学。

・定時制課程を卒業した県内11校の生徒による不登校に関する実態調査結果では、中学校での生活で不登校になるきっかけがあり、高校では、友人関係を中心とした人間関係の改善などがある。

閉会の挨拶において、石巻専修大学人間学部の新福悦郎氏は、次のように述べている。

「各学校のコーディネーターは教頭であったり、いじめ不登校担当教員、養護教諭などであった。そうだととしても、コーディネーターを担うべき人をだれにすべきかを考察していくことは不登校支援にとっては非常に重要な要素になる。不登校支援におけるコーディネーターの役割は重要である。その仕事をこれから専門化していくのか、そこに今後の未来がある。現状のままでは、不登校児童生徒の増加は止まらないであろう。不登校支援コーディネーターはだれが・・・私たちはその意義と重要性を改めて再認識し、必要な要素は何か、校内なのか、校外なのか、真剣に考え、システム変更を考える曲がり角に来ている。」

2-2-5 教師力向上セミナー「いしのまき教師塾」

令和元年、公立学校の教員採用を志望している学生と小・中学校に勤務している臨時的任用教員及び初任者層を対象に、教員の「養成・採用・研修」の一体化を図り、教師としての資質能力の向上を目的に、教師力向上セミナー「いしのまき教師塾」を立ち上げた。

表7 「養成・採用」コースの計画

	研修内容
1 回	6/25 (金):「教育に関する一般教養」 教員採用一次試験「教育に関する一般教養」の傾向と対策に向けて過去問を分析して出題傾向をつかむ。 (担当: 田中秀典)
2 回	7/9 (金):「確かな教職教養・教職関係法規」 教員採用一次試験「教職教養・教職関係法規」の傾向と対策に向けて過去問を分析して出題傾向をつかむ。 (担当: 有見正敏)
3 回	8/20 (金):「教育の今日的課題①(集団討議の実践)」 教員採用二次試験「個人面接・集団討議」に向けた予想される質問内容の把握と質問に対する答え方の実践を行う。 (担当: 横江信一)
4 回	8/27 (金):「教育の今日的課題②(集団討議の実践)」 教員採用二次試験「集団討議」に向けた予想される質問内容の把握と質問に対する答え方の実践を行う。 (担当: 横江信一)

表8 「研修」コースの計画

	研修内容
5 回	9/17 (金):「これからの学級の育て方・生かし方」(演習) 2学期を迎えた学級経営の視点を理解するとともに、コロナ禍の学級経営上の課題を明らかにし、課題解決をはかる。 (担当: 横江信一)
6 回	10/8 (金):「よく分かる授業づくりの進め方①」(演習) 教科指導を進めるうえでの教材研究や授業の進め方など、授業づくりの基礎・基本について理解を深め、これからの授業の改善に役立てる。 (担当: 有見正敏)
7 回	11/12 (金):「よく分かる授業づくりの進め方②」(演習) 教科指導を進めるうえでの教材研究や授業の進め方など、授業づくりの基礎・基本について理解を深め、これからの授業の改善に役立てる。 (担当: 田中秀典)
8 回	12/3 (金):「これからの教師の役割」 教育の不易と流行を踏まえ、いじめ問題や生徒指導上の課題、保護者対応、職場の人間関係等に対する理解を深め、これから求められる教員として職務遂行に役立つ上での教材研究や授業の進め方など、授業づくりの基礎・基本について理解を深め、これからの授業の改善に役立てる。 (担当: 木村民男)

〔参加者のコメント〕一部抜粋

・講話を通して、一般教養対策の大切なことを学びました。特に、一般教養の問題の中で、教職教養の問題数との比較を意識することが必要だと感じました。オンラインで参加した現役の先生やOBから励ましの言葉もいただきました。今回学んだことを今後の学習に反映していきたいです。

(人間文化学科4年 今田悠斗)

・集団討議や自己紹介など話す機会が多く、実践的に学ぶことができました。また、他の人の討議からも学びや自分との違いを知ることができ、とてもよい時間でした。

(人間教育学科4年 阿部竜太)

・集団討議や面接などのポイントについて知ることができたことが良かったです。学生の方々とこのように関わることを通して本番の討議を想定できたと思います。
(中学校教員)

・堂々とした話し方、周りの人とは違う意見、抑揚のある話し方など、とても勉強になりました。この二次試験までの期間で少しでも自分の理想の立ち振る舞いになれるようにしたいです。

(小学校教員)

2-2-6 保育・教育の課題についての意見交換

協議会の中では、教育人材育成拠点校連携推進連絡会、大学が教育人材育成に向けて取り組んでいることなどについての報告と保育・教育の課題についての意見交換を行ってきた。

各団体からのこれまでの課題は次の通りである。

〔教育についての課題〕

- ・生活環境の復興改善が進まない大人のイライラ感が児童生徒に伝播
- ・児童生徒の心のケア
- ・基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の徹底
- ・防災教育の充実
- ・学力向上の推進
- ・家庭事情の複雑化
- ・運動能力の低下(肥満傾向)
- ・食育についての学校と家庭との連携
- ・少子化に伴う学校の統廃合
- ・通常学級で増えている気になる児童の増加
- ・幼保小連携の必要性
- ・不登校児童生徒の増加
- ・中高連絡会の推進(相互の授業公開)
- ・小中連携
- ・教員の資質の向上と研修の充実
- ・いじめの起きない学校経営、学級づくり
- ・志教育の充実
- ・学習指導要領の先行実施
- ・社会に開かれた教育課程
- ・自然体験の充実
- ・コミュニケーション能力の育成

〔保育についての課題〕

- ・待機児童の解消

保育士・教員養成センター 10年間のあゆみ

- ・保育士の確保
- ・保育士研修
- ・高校生を対象とした「保育士の仕事」の魅力をPR
- ・子育て支援事業
- ・保育士の資質向上のための研修
- ・認定子ども園の理解
- ・園内保育研究成果公開と教員の資質向上の推進教育についての課題を集約すると10に分類することができる。

- ①震災後の心のケア
- ②防災教育の充実
- ③基本的生活習慣の徹底
- ④学校の統廃合
- ⑤校種間の連携
- ⑥学力・体力の向上
- ⑦いじめ、不登校の現状と対策
- ⑧学習指導要領の推進
- ⑨特別支援教育の充実
- ⑩教員の研修と資質の向上

一方、保育についての課題は次の4つに分類することができる。

- ①待機児童の解消
- ②保育士不足と確保
- ③認定子ども園の増加
- ④保育士の研修と資質の向上

本協議会は、これらの意見交換を通して、それぞれの立場から現状を見直したり、今後の対策について考えたりするきっかけの場となっている。

3 教育人材育成拠点校連携推進連絡会

3-1 趣旨・参加機関・事業内容

〔趣旨〕

石巻地域の教育人材育成のためには、大学及びその他の教育機関等が相互の交流を深めるとともに、教育・研究活動の連携を行うことが重要である。特に、保育士、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭を育成するためには、大学が幼保・小中・高及び養護施設等に拠点校及び協力校を置き、相互交流及び教育・研究の拠点として教育人材のための実践を行う。

〔組織〕

◇拠点校

- ・石巻保育所、住吉幼稚園、石巻小学校、石巻中学校、桜坂高等学校、石巻支援学校、石巻市子育て支援課・こども保育課、石巻市教育委員会

◇協力校

- ・石巻市、東松島市、女川町、登米市の公立保育所・幼稚園・小学校・中学校
- ・石巻地区高等学校（11校）
- ・登米地区高等学校（5校）
- ・石巻地区私立保育所・幼稚園
- ・石巻地区児童福祉施設等

〔事業内容〕

◇大学生による拠点校・協力校への教育支援

・拠点校、協力校の要請により、学生が学習支援、学校行事支援、環境整備支援等を行う。

◇拠点校・協力校による大学生の現場実習への協力

・拠点校、協力校に大学生の現場実習（授業参観、保育参観、学校体験活動）をお願いする。

・教員採用内定者の教育実践、研修をお願いする。

◇拠点校・協力校による教育実習への指導

・大学の要請により、教育実習は基本的に出身校で実施するのが慣例であるが、出身校で教育実習ができない学生のために、拠点校・協力校に教育実習の受け入れをお願いする。

◇拠点校・協力校と連携した研究や教育の推進

・児童生徒理解について研究したり、連携した事業の取り組みの効果について検証したりする。

3-1-1 大学生による拠点校・協力校への教育支援

拠点校、協力校等の要請により、学生による拠点校・協力校への教育支援を年度ごとに示す。また、拠点校、協力校以外から要請があった事業の支援も示す。

（平成26年度）

○夏季休業中における学習支援

- ・石巻市（12名）、東松島市（7名）、涌谷町（6名）、美里町（1名）、大崎市（1名）

○放課後学習支援

- ・石巻市（1名）、女川町（1名）

○行事支援

- ・利府支援学校（運動会：5名）、石巻支援学校（運動会：3名）

（平成27年度）

有見 正敏

○夏季休業中における学習支援

- ・石巻市 (23 名)、東松島市 (3 名)、登米市 (16 名)、大崎市 (2 名)、涌谷町 (27 名)、美里町 (4 名)、柴田町 (4 名)

○放課後学習支援

- ・石巻市 (4 名)

○行事支援

- ・石巻支援学校 (運動会：11 名、学校祭：9 名)
- ・石巻市 (7 名)

(平成 28 年度)

○夏季休業中における学習支援

- ・石巻市 (7 名)、東松島市 (9 名)、涌谷町 (8 名)、美里町 (5 名)

○行事支援

- ・石巻市 (10 名)
- ・石巻支援学校 (運動会：8 名)

(平成 29 年度)

○夏季休業中における学習支援

- ・石巻市 (7 名)、涌谷町 (1 名)、東松島市 (1 名)

○行事支援

- ・石巻市 (17 名)
- ・石巻支援学校 (学校祭：19 名)

(平成 30 年度)

○夏季休業中における学習支援

- ・石巻市 (13 名)、東松島市 (3 名)、登米市 (1 名)、涌谷町 (1 名)、大崎市 (1 名)

○行事支援

- ・石巻支援学校 (運動会：10 名、学校祭：11 名)

○その他

- ・ものづくり教室 (11 名)、学ぶ土台づくり事業 (5 名)、サマーチャレンジ (3 名)、リバーサイドマラソン (9 名)、キッズサポート・プログラム (9 名)

(令和元年度)

○夏季休業中における学習支援

- ・石巻市 (10 名)、東松島市 (3 名)、涌谷町 (2 名)、大崎市 (1 名)

○行事支援

- ・石巻支援学校 (運動会：12 名)

(令和 2 年度)：中止

(令和 3 年度)

○授業における学習支援

- ・東松島市 (1 名)

○その他

- ・ものづくり教室 (11 名)、キッズサポート・プログラム (5 名)、親子参加型イベント (3 名)、サマーキャンプ in 南三陸 (3 名)

(令和 4 年度)

○放課後学習支援

- ・石巻市 (9 名)

○授業における学習支援

- ・東松島市 (1 名)

○その他

- ・ものづくり教室 (6 名)

3-1-2 拠点校・協力校による大学生の現場実習への協力

拠点校・協力校の協力の下、「保育・教育研究」(1 年次)の授業の中で、保育参観、授業参観を行った。保育や学校などの現場・参加を行うことで、大学で学習した内容を省察し、今後の学習への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を確認することを目標としている。

[参観校]

◇石巻市：石巻小学校、稲井小学校、住吉小学校
飯野川小学校、須江小学校、石巻保育所、井内保育所、湊こども園、社会福祉法人石巻祥心会

◇東松島市：矢本東小学校、矢本西小学校、大曲小学校、赤井南小学校、大塩小学校、矢本東保育所、矢本中央幼稚園、はなぶさ幼稚園、ウェルネス保育園矢本、ウェルネス保育園赤井

◇女川町：女川小学校

◇宮城県：石巻支援学校

《学生の学び》一部抜粋

・障害をもった子どもが、一生懸命勉強する姿と大きな声で挨拶をする姿を見て、自分に足りないものが見つかった。また、教師の大変さも感じた。今回の授業参観で、自分自身を変化させることができたのではないかと思った。(支援学校)

・大きな声でゆっくりと話しかける。子どもをせかさず、できたら褒める、身振り手振りを交えてコミュニケーションをとる、できる限り視線を合わせる。この 4 つは、インクルーシブ教育システムの「個」に応じた指導をするために必要なことだと考えた。(支援学校)

・先生の文字が丁寧だった。子ども達のノートを

見回りながら見させてもらったが、どの子どもも丁寧に文字を書いていた。やはり、子どもは先生の真似をして成長していくのだと感じた。(小学校)

・導入の部分で、フラッシュカードを使って学習意欲を喚起していた。その後も元よく授業に参加していた。勉強は、「おもしろい」と感じるができないと継続しないということを目の当たりにした。(小学校)

・並ぶのが遅い子どもやおしゃべりをしている子どもに対して、先生は数を数え始めた。「10、9、8……」と言ったら、子ども達は静かになり、並び終えていた。遊びを通して、人間関係や社会のルール、健康や体力づくりを学べる場であることを改めて感じた。(保育所)

・年少ということもあり、友達と話をしながら先生の話を聞いていない子どもがいた。すると先生は、大きな声で話すのではなく、小さな声で話し始めた。すると、話をしていた子どもが、話すのをやめて先生の話を集中して聞くようになった。言葉に強弱をつけることで、子ども達が聞こうとする先生方の工夫を見ることができた。(幼稚園)

また、「専門教養演習」(2年次)の授業では、二日間の学校体験活動を行った。

保育・教職について職務の実際、保育や指導等の内容、ならびに現状と課題などについて知ること、実際の教職体験の中からテーマを設定し、調査・研究を行い、その成果を発表することを通して、保育・教育に関する実際的・実践的な理解を深めることを目標としている。

[学校体験活動校]

◇石巻市：石巻小学校、釜小学校、貞山小学校、二俣小学校、住吉幼稚園、河北幼稚園

◇東松島市：大塩小学校、赤井北保育所、大塩保育所、大曲保育所、矢本西保育園

◇女川町：女川小学校、しおかぜ保育所、女川第一保育所

《学生の学び》一部抜粋

・1年生と5年生をそれぞれ1日見学や体験を行った。ICT教育が進んでいることや子どもの元気のよさに驚いた。また、先生方のアクシデントへの対応の仕方や授業での工夫など、今後の実習や教員になった際にも生かすことができる濃い

内容であったと感じた。(小学校)

・安全教育とはいったいどんなものなのか、なぜ必要なのかなど、安全教育に対する基本的なことから改めて学びを深めることができた。安全教育は、生活安全、交通安全、災害安全の三つに分けられ、一つ一つ詳しく調べることで三つの安全のつながりが分かり、共通して事前に指導を行い、地域の人みんなで助け合うことが大切だと気付き、もっとそれぞれについての知識を深めることが重要だと分かった。(小学校)

・私は震災を経験して、命を守る大切さ、守り方を多くの子どもに伝えられ、信頼関係を築き上げることのできる保育士になりたいと思った。そのためにもっと子どもの年齢の成長や関りについて学び、実践していくことを決めた。(幼稚園)

・「気になる子ども」にとって、より良い保育、対応を取るためには保護者と連携を図ることが一番大切であると考えた。その子どもの家庭での行動を知ることができればその子どもの保育をするために必要なことが分かってくる。そして、保護者を支援することも「気になる子ども」への保育方法を知る近道になることが分かった。(保育所)

・自分自身に課題としてのしかかってきたのは、子どもへの対応の臨機応変さだ。一人一人の個性の異なる子どもが集団で生活するという保育の現場で、一人一人の子どもを満遍なく保育することは不可能に近く、時には子どもの声を聞き流すなど、集団活動と子ども本人の個性の両立を図る必要があり、それらを実現に近づけるのは子どもとの信頼関係からなる、互いを理解し合うことに意味があることが分かった。(保育所)

3-1-3 拠点校・協力校による教育実習への指導 〔教育実習校〕

◇石巻市：石巻小学校、釜小学校、大街道小学校、蛇田小学校、稲井小学校、万石浦小学校、向陽小学校、鹿又小学校、北村小学校、湊小学校、万石浦中学校、石巻北高等学校、石巻好文館高等学校、石巻西高等学校

住吉幼稚園、河北幼稚園、みづほ幼稚園、メロン保育園、前谷地保育所、蛇田保育所、若草保育所

◇東松島市：矢本東小学校、赤井南小学校、矢本

西小学校、大曲小学校、はなぶさ幼稚園、赤井北保育所、大塩保育所、大曲保育所、矢本西保育園、ウェルネス保育園矢本、ウェルネス保育園赤井

本学の教育実習は、事前、時中、事後に分けて指導を行っている。

事前指導においては、現場で活躍している教員を招聘し、模擬授業と教材研究の指導を行っている。また、学んだことを基に実際に指導案を作成し、模擬授業とグループ討議を実施している。グループ討議では、教員が入って指導・助言を行い、実践的指導力を高めている。

実習中は、担当者が実習校に出向き、学生による実践授業の参観と実習担当者と懇談を行い、課題や今後の指導について話し合っている。

事後指導では、実習の成果と課題を話し合い、今後の取組を明らかにし、実践的指導力を高める努力を促している。実習報告会は、実習を通して学んだことや今後実習に臨む後輩に対する助言の場となっている。質疑や応答を通して、実習生は、改めて教育の素晴らしさと教員になることの自覚を資する場となっている。

地域との連携を深めるために、教育人材育成・協力校連携推進連絡会の場で、学生の取組状況や要望等について協議を行っている。

〔教育実習で学んだこと〕一部抜粋

・子ども達と関わる中で、小学校教諭の仕事のやりがいや魅力を感じる事ができた。子どもと遊んだり授業をしたりといった日常生活を共に過ごし、信頼関係が少しずつ形成されたり、子どもへの愛着が芽生えたりした。4週間という限られた時間ではあったが、子どもの成長を実感する場面を見たり、毎日素直で元気な子ども達と話したりしてやりがいや楽しさを感じる事ができた。また、実践授業や日常生活の中で、子ども達に助けられる場面や子どもから学ぶことが多くあり、一人の人間として子どもと真正面から対等に向き合うことの大切さも強く感じさせられた。

(小学校)

・分からないことをそのままにせず、その日のうちにできる限り保育者に質問することが大切であることを学んだ。手遊びを決める時には、その時の子どもの状況に合うように、保育園ではいつも

どのような絵本を読んでいるのか、子どもが好きな絵本はどのような絵本なのか、などを聞いたり、気になる子どもがいた時は、この子どもにはどのような援助や配慮をしているか、このような場合はどうすればよいのかなどを質問したりした。それによって、自分の保育に対する理解が深まった。(保育園)

3-1-4 拠点校・協力校と連携した研究や教育の推進

児童生徒等の理解についての研究や教師としての資質向上のための事業について拠点校・協力校と連携してきた。

宮城県の不登校の発生率が全国的に見て高く、なかでも石巻地域の発生率が高いことが分かり、教育学科で不登校問題検討会を立ち上げた。

また、教員の「養成・採用・研修」の一体化を図り、教師としての資質能力の向上を目指すことを目的に、教師力向上セミナー「いしのまき教師塾」も立ち上がった。

以下は、それらの結果や内容等を拠点校連携推進連絡会の場に報告し、意見交換した内容である。

◇不登校問題について(平成26年～平成28年)

- ・不登校問題に関するアンケート調査
- ・不登校問題に関するアンケート調査の結果報告
- ・不登校担当教員へのアンケート分析結果
- ・不登校への対応のあり方

◇シンポジウム「石巻圏域における不登校問題の現状と課題」(平成28年2月)

◇不登校支援研究会報告書(平成31年)

◇教師力向上セミナー「いしのまき教師塾」(令和元年～現在に至る)

- ・「養成・採用」コースの内容
- ・「研修」コースの内容

◇理科教育の推進と学習支援

4 まとめと今後に向けて

「石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会」における意見交換での成果を振り返る。

①教員の資質向上のための公開講座として、宮城県が主催する「10年経験者研修」を実施した。東部教育事務所や石巻地区校長会から、教員の時間的、経済的状况から歓迎する声が多数寄せられた。

参加した教員からは、教材研究や小中連携の必要性、発達障害やいじめ問題への対応など、今後に向けて実践意欲を喚起する機会となった。

②教員免許更新の開催は、東部教育事務所から要望が出されたものである。石巻圏域から予想を上回る66名の参加があった。近くで受講できる本学の存在が高まる結果となった。

③地域社会の教育活動や福祉活動に貢献できる資質を学生に身に付けさせたいことから、東部事務所管内の小中学校に対してアンケート調査を実施した。その結果、多くの学校で学生のボランティア活動を望んでいることが分かった。令和5年の段階で60名が登録している。授業中における学習支援、放課後における学習支援、運動会や学習発表会などの行事支援が主な内容である。学生は、教職に向けての意欲をさらに高める機会となった。

④不登校支援シンポジウムには多くの小・中・高等学校の教員の参加で開催された。不登校の早期発見、未然防止教育の取組はどうあればよいか、それぞれの校種の管理職や教員からの意見交換がなされた。不登校率が依然として高い石巻地区にとっては、喫緊な課題であったため、学校としての取り組みを見直すきっかけとなった。

⑤教師力向上セミナーの実施は、教員の「養成・採用・研修」の一体化を図る一つの取組である。それぞれのコースごと、全部で8回の研修を行った。学生や小・中学校に勤務している臨時的任用教員及び初任者層にとっては、自分を更に高める研修となった。特に、集団討議の演習では、学生にとって経験豊富な現場の教員と討議することは大きな刺激となった。

次に、「教育人材育成拠点校連携推進連絡会」における意見交換での成果を振り返る。

①学生による教育支援として、授業中における学習支援、放課後学習支援、夏季休業中における学習支援が主なものである。教えることの難しさを実感したり、自己肯定感を高めるような言葉掛けをすることの大切さを感じたりすることができた。

②学生の現場実習として、授業参観、保育参観、インターンシップを行った。

授業参観においては、子どもの頑張りを褒めることで学習意欲や自己肯定感を高める指導を見ることができた。

保育参観においては、ピアノを活用して、教室に戻ったり、次の行動に移ったりするなど、自分から進んで行動できる様子を見ることができた。インターンシップでは、学校や保育所の一日の流れを、子ども達と触れ合う中で肌で感じることができた。また、プロとしての授業の進め方、子ども一人一人への接し方や関わり方、教師と子どもとの信頼関係などを学ぶことができた。

③学生の教育実習においては、事前、時中、事後の指導を行い、実践的指導力を高めることができた。実習報告会は、今後実習を迎える1、2年次の学生に対して、実習を通して学んだことや実習に臨む心構えなどを伝える場となっている。質疑や応答を通して、実習生は改めて教職の素晴らしさと教員になることの自覚を資する場となった。④連携した研究や教育の推進では、不登校問題、教師力向上セミナー、理科教育の推進と学習支援に取り組んできた。不登校問題では、シンポジウムを開催し、早期発見、未然防止教育についての必要性和改めて認識する機会となった。教師力セミナーは、学生にとって、現場実践が豊富な意見や討議内容に多くを学ぶことができた。理科教育の学習支援では、理科離れが進む中、理科教育の楽しさや実施上の留意点について学ぶことができた。

以上の成果から、「石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会」、「教育人材育成拠点校連携推進連絡会」を通して、教育委員会、学校との連携強化と支援体制が構築することができた。また、本学にとって大学教育改革を推進する教職員の育成と、質の高い保育・教員養成の拠点となりつつあることが確かめられた。

この10年間において、保育士・教員数は公立の小中学校教諭27名、中学校教諭8名、公立の保育士・幼稚園教諭10名、計45名の輩出となっている。

今後さらに発展・充実させるためには、保育士・教員養成センターの組織を活用し、各学部と連携しながら取り組んでいくことが大切である。

参考・引用文献

- 1) 大学時報 (2014年)
- 2) 不登校問題検討会報告書 (2017年)「石巻専修大学 不登校問題検討会」
- 3) 不登校支援研究会報告書 (2019年)「石巻専修大学

有見 正敏

石巻地区不登校支援研究会」

5) 教育人材育成拠点校連携推進連絡会議事録

4) 石巻圏域保育・教育人材育成推進協議会議事録